

氷が解けたら水になる。雪が解けたら・・・春になる！

あなたの「生きる」を支えるお寺

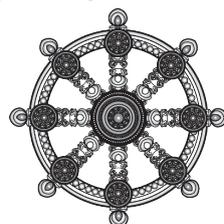
毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゅんしょうじほう

純正寺報

青色青光 No.346



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵 (漢見覚恵)

〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス :purity.temple.since1499@gmail.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

春季彼岸会

◎ 3月22日(土)

10:00~12:00 13:30~15:30

勤行 午前『仏説阿弥陀経』

午後『正信念仏偈和讃』

法話 近江八幡市願通寺

中尾 萌恵 師

「命懸けのお導き」

法話

純正寺住職

勤行

『正信念仏偈和讃』

午後一時半より三時まで

◎三月七日(金)

四十二回忌

妙音院釋快俊

純正寺第二十一代住職

3月25日(火)10:00~12:00 13:30~15:30

法話 大津組大泉寺

こんき常例布教

寺西 実円 師

YouTube 純正寺チャンネル



LINE 純正寺公式アカウント



純正寺公式ホームページ



facebook 常朝事チャンネル



純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞いただけます。

住職法話

われかくのごとく
我聞如星

遠く出遇いの宿縁をよるこぶ①

私は何故、お念仏に生きるようになったのか

本堂なき寺院に生まる

私は、今年六十歳になります。今振り返ると、人に生まれてきた不思議、そしてお念仏に出遇えた不思議を思わずにはいられません。では、何が私の人生をお念仏に出遇わせたのでしょうか。

私は、一九六五年（昭和四十年）に当時純正寺住職の私の祖父快俊の三男で住職後継予定者であった父寛祐と母尋子の第一子の長男として誕生しました。二年後には妹が、そのさらに二年後には弟が誕生し、三兄妹として育てられました。

生まれた環境は寺院。し

かし、当時の純正寺には本堂などの施設は全くありませんでした。というのも、純正寺は敗戦色が濃厚な太平洋戦争の末期の一九四五（昭和二十年）七月、本土決戦による空襲に備えて、防空法第五条による建物疎開の対象建造物に指定されて、本堂・庫裡・書院・山門・鐘楼・外塀など全ての寺院施設を強制的に撤去された、滋賀県唯一の本願寺派一般寺院であったからです。

ですから、寺院に生まれたと言っても広い家で育つたわけではなく、それどころか今で言えば「5K」の広さの平屋建ての民家を仮の寺院として使用しているところで暮らしていたのです。その暮らしは、一般家庭としては十分な広さでありましたが、報恩講などの法要となると、法要の前日には家財道具を全て屋外に運び出してブルーシートをかけ、全ての部屋を法要のための部屋とし、私たちの子どもの居室寝室（六畳和室）も本堂になるというような状態でした。報恩講の当日には、休憩する居場所もなく、休むのは浴室の浴槽の中といった具合です。

寺も僧侶も嫌い

私は、幼少期からそのような生活環境にとっても不満

を持っていました。それに

加えて、周囲の人たちから

「住職後継予定者」と呼ばれ

特別扱いされ、自分の将来

を自分で選択し決定するこ

とができないことへ窮屈さ

と威圧感を感じていました。

また、小学生の頃このよう

なことがありました。理由

はもう記憶にはありません

が、クラスメイトと口喧嘩

をした際、相手の「お前の

父親は、人が死んだらお金

が儲かるのだらう」という

一言に返す言葉がありません

でした。その頃から、私

は明らかに僧侶・寺院・仏

教に対する嫌悪感を持つよ

うになりました。それは、

他者の死に関わる生業で生

活基盤を得ることへの、後

ろめたさのような気持ちで

した。

このような気持ちで少年期・青年期を過ごした私は、高校時には学校で体育・スポーツが得意科目であったことから、高校卒業後に体育大学へ進学し体育の教員になることを目指すようになっていました。そして密かに、大学進学と同時に実家を離れようと思っていたのです。

そのような思いを私が持っていることを、両親はもちろん薄々気づいていたことでしょう。しかし、そのような私を両親は嗜めるたしなこともありませんでした。それどころか、周囲が私を住職後継予定者だと呼ぶ中で、両親だけは私をそのように呼ぶ事も扱うこともあ

りませんでした。

父の自覚と覚悟

現在、布教使として多くの寺院のご法要やご法座にご縁をいただくのですが、例えば報恩講の際に、お内陣にご住職とそのご子息の住職後継者、さらにはそのまたご子息の三代が揃って色衣・五条袈裟で出勤されている光景をよく見かけます。しかし、父は私が十八歳で得度するまで、私に一度も衣を着ることを勧めたことはありませんでした。それどころか、このようなことがありました。私が、小学生の時に母の実家の寺院の報恩講に母に連れられた参拝した時のことでした。母方の祖父母が、私の参拝

を喜んでくれて子ども用の袈裟・衣を出してきて、それを着て一緒に内陣にお参りしたことがありました。参拝者の人達も、それをとっても喜んでくださったことが、私としても何だか心地よかったです。帰宅後父に褒めてもらおうとそのことを話しました。すると、あろうことか父は母に対して「お前は何てことを子どもにさせたのだ。お前たちがしたことは、本人の意思を無視した周囲の大人のマスターベーションに過ぎない行為だ」と激怒したのです。今考えてみると、父は自らが二十歳の時、元々祖父の住職後継者であった長男が、本堂のない寺などに未

て次男もそれを拒否し、当時高校生・中学生であった四男・五男にそれを押し付けることもできずに、高校卒業と同時に働いていた会社を退職して、一念発起独学で勉強し直して龍谷大学に進学、そして得度して僧侶になった人でした。

父が僧侶になるには、長男が当たり前のように後継するよりもはるか高い、精神的な壁を乗り越えねばならなかったのでしょう。そのような僧侶に対する考えを持っていた父ですから、僧侶になるのには強い自覚と覚悟が必要だと思っただのだと思うのです。ですから、私に僧侶になることを当たり前のように勧めなかつたのでしょう。

次号に続く



3月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を越えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ一、六八〇、一八八個

立春を過ぎてからの重たい大雪に、またもや本堂の樋が被害に遭いました。二月は、五九八〇個のキャップでした。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

1日(土)・8日(土)
10:00~12:00
就学前・小・中学生対象

「らいはいのうた」のお勤めと、住職による「仏典童話」の読み聞かせがあります。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

9日(日)・16日(日)
15:00~17:00
小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。休憩時には、おやつもあり。

みんなの食堂ビハーラ

13日(木)
17:00~19:00

年齢・性別は問いません
子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

9日(日)
18:00~20:00
年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

ヨガ風ストレッチ「びーら体操」

4日(火)・11日(火)・18日(火)
10:20~11:30
年齢・性別は問いません

お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう。

「月例法話座談会」

17日(月)
14:00~16:00

年齢・性別は問いません
日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

桜の開花も「春季彼岸会」

22日(土)
10:00~12:00.13:30~15:00
年齢性別は問いません

真西に沈む太陽に、私の確かな命の行方をお浄土といただく日。法話は、中尾萌恵師です。

みんな法友こんき常例布教

25日(火)
10:00~12:00.13:30~15:30
年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法の朋ができる法座です。ご法話は、大津市大泉寺の寺西実円師です。

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50
年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません
生きることが辛くなる前に、早めに気軽にご相談下さい。
相談予約専用電話番号は、090-7874-2849
相談予約専用メールアドレスは
namo-yorozu@docomo.ne.jp

お知らせ

純正寺住職は、滋賀県教誨師会の海外研修のため、三月二十六日(火)から四月三日(木)まで純正寺に不在となり、この期間の月参り等の法務をお休みさせていただくことがあります。ご迷惑をおかけいたします。ご了承ください。

一月二十五日
ご往生
法名 釋弘願
俗名 中嶋弘美様
八十一歳
仏教婦人会の副会長などを務めくださいました。謹んでお念仏申し上げます。

